

第10回 DAAS運営委員会

□日 時： 2009年6月26日(金) 午後2時～4時

□場 所： 財団法人ベターリビング 1階 BL101会議室

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-14-36 FUJIMI WEST

TEL:03-5211-0568(DAAS事務局)

□議 事：

[承認事項]

○第3期(2008-2009 年度)及び第4期(2009_2010 年度)活動計画の件

議案1 2009年補助金事業についての件

〈資料 1〉

議案2 事務局委託先変更についての件

〈資料 2〉

[報告事項]

2008年度補助金事業報告

〈資料 3〉

ビデオWGの進捗報告

〈資料 4〉

収蔵事業活動の報告

〈資料 5〉

デジタル卒業設計大賞2009について

〈資料 6〉

建築学会設備小委員会インタビュー対応

会費請求について

配付資料

〈資料 1〉 優良な建築物の記録作成事業

〈資料 2〉 -1 DAAS 事務局契約について

-2 DAAS 運営全体イメージ

-3 DAAS 事務局 業務委託(案)

-4 事務局名簿

〈資料 3〉 -1 2008 年度住宅・建築物の表彰事業における過去の記録の整理

-2 報告書抜粋(回覧用)

〈資料 4〉 -1 DAAS ビデオ企画案

-2 DAAS ビデオ企画 次年度対象者パースペクティブ

-3 ビデオ装丁(案)

〈資料 5〉 -1 DAAS の活動 4 つの骨子(エスエス写真様との共同作業をめざして)

-2 著作権についての整理

〈資料 6〉 DAAS デジタル卒業設計大賞 2009 募集要項

<資料1>

住まい・まちづくり担い手事業
(長期優良住宅等推進環境整備事業)

2009年6月26日
DAAS事務局

応募案1「優良な建築物の記録作成事業」

実施団体: DAAS

申請団体: DAAS

申請額: 1,800万円

事業概要:

2011年のUIA大会に向け、我が国において、文化的、景観上、高く評価された住宅・建築物の記録をアーカイブし広く世界に発信するコンテンツを作成する。参加団体の基本的な賞を受賞した建築物の写真及び諸データをアーカイブする。

事業詳細:

- ・ 2年間で1,000件の住宅・建築物について、1件当たり5件の写真記録をデジタルアーカイブし、ウェブ等で公開できるシステムを構築する。
- ・ デジタルアーカイブ費用(予定) 1,250万円/年
(500×5×5000円)
- ・ 受賞者等権利者調整経費(人件費・通信費等 予定) 550万円/年

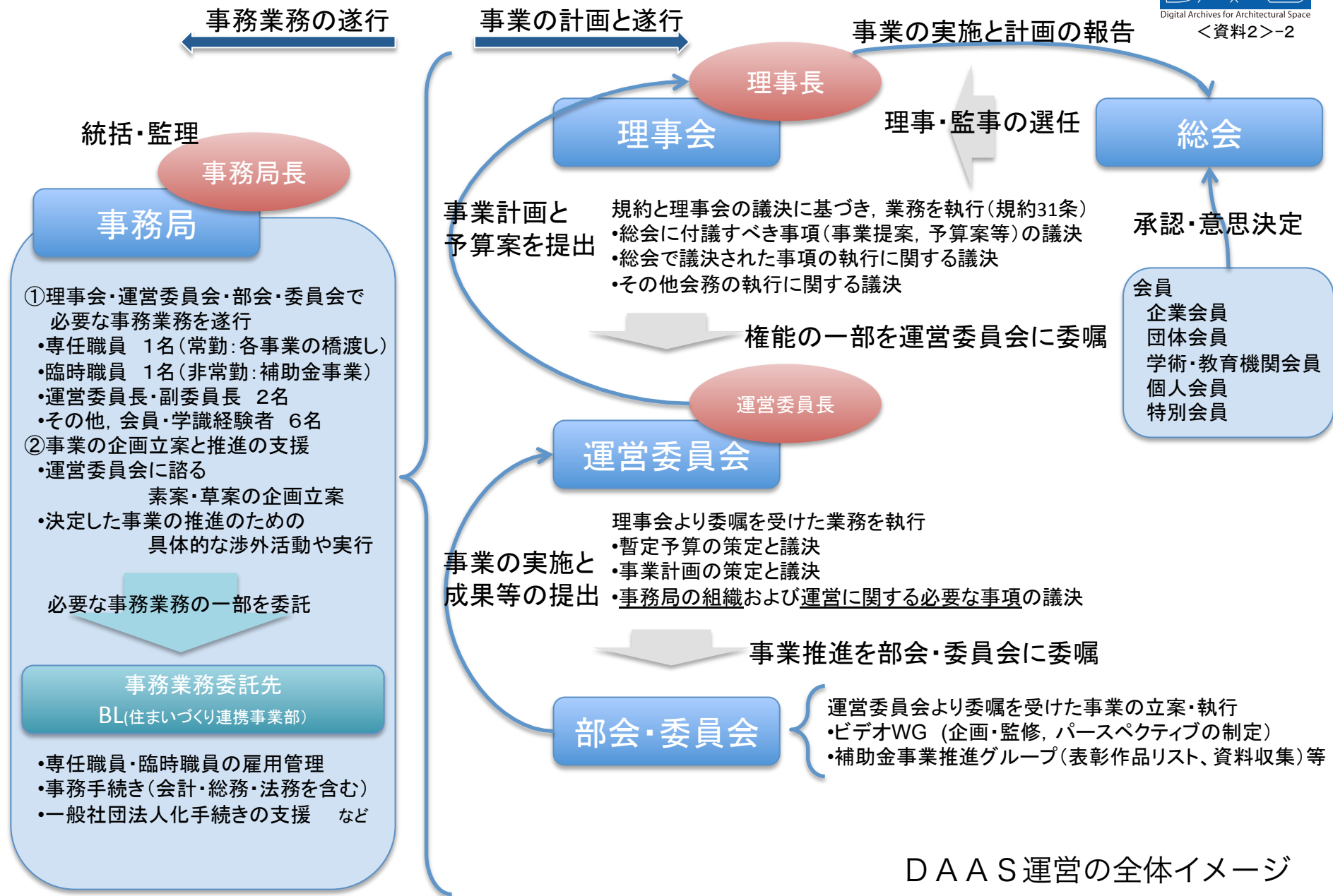
〈資料2〉-1

DAAS 事務局契約について

2009 年 6 月 26 日

DAAS 事務局

- 第3期は特定非営利活動法人 住宅・建築・都市政策支援集団に事務局委託することとしていたが、住宅・建築・都市政策支援集団との契約は前半期とし、後半期から 財団法人 ベターリビングに変更する。
- DAAS が受ける補助金事業の人件費及び経費を 財団法人 ベターリビング委託分に上乗せ（4～500万円）し、財団法人 ベターリビングから DAAS 事務局に出向者を1名確保（当面2年）
- 場所は 特定非営利活動法人 住宅・建築・都市政策支援集団事務局（千代田区富士見 2-14-36 FUJIMI WEST 4 階）から 財団法人 ベターリビング（同住所）に異動



事務		1. 専門知識が必要	2. 臨時雇用で対応可能
日常業務			●ファイル管理 (随時) ●備品管理 (随時)
経理処理		●税務関係手続き (随時・1月) -④ ●会計監査書類作成 (10月) -③ ●予算書作成 (9月) -②	●日次会計書類作成 (月1) -⑥ ●経費処理 (月1で可) -⑦ ●会費請求 (8月) -⑧
会議・総会		●日程調整 ●議案作成 ●会議資料作成 ●旅費等精算 ●会議告知 ●関係者対応	●会場と備品用意 (随時) ●議事録作成 (随時) ●資料準備 (随時) ●出席確認 (随時)
契約関連		●契約締結	●契約書式作成 (著作権関連含) (随時) -⑤
その他		●臨時雇用者の管理 ●法人化手続き (7月) -①	●メタデータ修正
事業		1. 専門知識が必要	2. 臨時雇用で対応可能
企画・コンテンツ		●企画検討 ●資料作成・管理 ●関係者対応 ●タスクリスト作成	●契約書式作成 (著作権関連含) (随時) -⑤ ●日程調整 (随時) ●議事録作成 (随時) ●メタデータ作成・訂正 (随時) ●備品購入 (随時)

事務局の環境の必要条件

・事務処理がスムーズにできる機器が最低限そろっていること。

・事務局の担当者が集まり随時打合せする際に、場所や人為的な障害がお互いにならないこと。

1. 専門知識が必要

- ① 法人化手続き（7月 保留）
 - ・法人化定款の相談 及び公証人への手続き 法務局で設立登記申請
 - ・法人化後の支援
 - ・一般社団法人を目指す（公益法人は補助金を受けられないことが現在のネックであるため）
- ② 予算書作成（9月）
 - ・年度末の委員会で作成する予算書の素案作成のアドバイス（会計上の表記方法のアドバイス）
- ③ 会計監査書類作成（10月）
 - ・貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、収支計算書、総勘定元帳など
- ④ 税務関係手続き（随時・1月）
 - ・法定調書作成（支払調書等、臨時雇用への支払が発生した場合には随時書類を作成）
- ⑤ 契約書式素案作成（随時）
 - ・契約書のひな形について 現行の契約書の内容の確認及び法務上の問題がないかどうかの確認（ビデオ、写真受取、ウェブ制作依頼等）
- ⑥ 日次会計書類作成（月1）
 - ・執行額が確認できるよう、各月毎の収支報告書の作成
- ⑦ 経費処理（月1で可）
 - ・消耗品、通信費等の振り込み、小口の支払についての経費処理を月締めで書類作成のお願い

2. 臨時雇用で対応可（事務局専任以外に依頼可）

- ⑧ 会費請求（8月）
 - ・各会員に、本年度の事業報告書と併せて次年度の会費請求書を送付。請求書発行作業、ファイリング、送付作業等の実務のお願い
 - ファイル管理（随時）
 - 備品管理（随時）
 - 会場と備品用意（随時）
 - 議事録作成（随時）
 - 資料準備（随時）
 - 出席確認（随時）
 - 日程調整（随時）
 - 報告書作成（随時）
- ・会議・委員会・総会における臨時雇用対応での事務作業の手伝い

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)
事務局名簿

2009 年 6 月現在

(順不同 敬称略)

■ 運営委員会委員長

三塩 達也 (株式会社日本設計 第3建築設計群 副群長)

■ 運営委員会副委員長

南 政樹 (慶應義塾大学 政策・メディア研究科 講師)

■ 事務局

高見 真二 (国土交通省国土技術政策総合研究所建築研究部基準認証システム研究室長)

林 隆之 (株式会社日本建築センター 課長)

中田 千彦 (宮城大学事業構想学部デザイン情報学科デザイン情報コース准教授)

遠山 緑生 (嘉悦大学 経営経済学部 専任講師 学長補佐(CIO)メディアセンター長)

大久保 成 (白百合女子大学非常勤講師)

井出 建 (環境計画機構 代表)

桐原 武志 (芦原建築設計研究所)

■ 事務局員

武藤 奈津子

1. 住宅・建築物の表彰事業における過去の記録の整理

(1) 作業報告

すでに各種表彰事業において評価を得た建築物の過去の記録を整理しリスト化する。また各受賞建築作品に関する詳細情報記録を作成し、DAASに収蔵する。

具体的には、建築5団体、(社)日本建築学会、(社)日本建築士会連合会、(社)日本建築士事務所協会連合会、(社)日本建築家協会、(社)建築業協会の表彰事業の受賞者リストを各団体と協力し作成をすすめ、建築詳細情報についてはDAASにて緒言情報項目を決めデータ整備を行った。

(i) 対照となる表彰事業及び件数

(a) 社団法人 日本建築士事務所協会連合会

期 間：第1回(1985年表彰)より第24回(2008年)
表 彰 名：建設大臣賞、国土交通大臣賞、日事連会長賞 等
作 品 件 数：269件

(b) 社団法人 日本建築家協会

期 間：1989年表彰より2008年表彰まで
表 彰 名：JIA新人賞、JIA25年賞、環境建築賞、日本建築大賞、日本建築家協会賞
作 品 件 数：189件

(c) 社団法人 日本建築学会

期 間：日本建築学会賞第1回(1949年)表彰より第60回(2008年)表彰まで
表 彰 名：日本建築学会賞、及び作品選奨
作 品 件 数：304件

(d) 社団法人 建築業協会

期 間：第1回(1960年)表彰より第49回(2008年)表彰まで
表 彰 名：BCS賞、及びBCS賞特別賞
作 品 件 数：781件

(e) 社団法人 日本建築士会連合会

期 間：1986年表彰より2008年表彰まで
表 彰 名：日本建築士会連合会賞優秀賞、奨励賞、特別賞
作 品 件 数：173件

作品合計：1716件

(ii) 作業方法

各種表彰事業との建築詳細情報(所在地・諸元等の情報)をインターネット、図書等で調査し、リストに加える作業を行う。入力後の抜け項目、誤字脱字等の確認作業を行い、より正確な情報の収集を行う。なお建築物の所在地については全ての建築物において完全な住所情報の収集を目指す。今後、関連資料の利用許諾の確認を進める上で、ファーストコンタクトとして不可欠な、設計者、設計事務所のコンタクト情報(名前、住所、電話番号、メールアドレス等)の収集もできる限り完全な形で遂行しておく。

2. 褪色補正し、デジタル保全をした建築資料の報告

(1) 作業報告

各種表彰事業で表彰をうけた建築作品の写真、図面等の資料提供、情報提供を 受賞作品の設計者へ依頼をする。依頼状を作成し、大手設計事務所4社（株）日建設計、（株）久米設計、（株）山下設計、（株）日本設計へよびかけを行い、資料収集及び資料のデジタル保全をすすめる。

(i) 実施方法

当団体の委員である、4社代表者との打合せを実施し、資料保全の趣旨説明を行った。（別紙1）各社のウェブ收藏についての意見、また、公開の権利に関する状況のヒアリングを行い、資料の提出数の設定と、受賞情報の収集等のフォーマットを作成。提出された資料のうち、写真資料等で褪色したもの、またはキズ・汚れのあるものについては、補正作業を併せて行うこととした。

(ii) 各社提出資料内容

- ・各社建築5作品、関連資料10点以上を収集。（関連資料については受領後DAASにてデジタル保全と補正を実施。）
- ・建築作品緒言等の情報は、建築作品データ、関連資料データ、受賞データの3つのフォーマットにそれぞれ記入を依頼し、各データについては受領済。

団体表彰建築作品のD A A S 收藏について 4 社への依頼 (案)

- ・ 主要団体が表彰事業により、価値を評価した建築物について、①その記録を保全するとともに、②広く国内外に紹介することを目的。
- ・ ①の記録保全については、公開を前提とせず、資料消失を避けるためのアーカイビングが基本的目的。消失リスクの高い資料は優先される。公開を前提としないため、図面等も受入れることを検討（スキャニングはD A A S 負担も可）。写真については、高精細のものの提供が受けられれば、高精細のものを收藏するが、アーカイブの趣旨から、解像度によらず資料性の高いものを写真以外でも收藏するのが基本。この際、アーカイブのセキュリティの確保とその説明が重要。（現在のサーバーのセキュリティはかなり高いが、アクセスコントロールや災害リスク対応等について、さらに改善の余地あり。）
- ・ ただし、①の記録保全についても、将来の公開をできるだけ容易にするため、受入れ時に公開条件を、提供者と文書により確認しておく。
- ・ ②の受賞作品の紹介については、まず、D A A S において、受賞作品名の正確なリストがD A A S ウェブで総覧できる状態（複数受賞状況も作品で検索可能なようにする。）にし、当該リストの作品の閲覧可能データとして、提供者に公開が認められた情報を、漸次、追加していくアプローチをとる。
- ・ すでに各団体のウェブで紹介されている写真等の情報については、上記リストの作品名から、各団体の当該作品紹介ページへリンクするようにし、平行して、各団体のウェブには無い情報（写真資料等の追加、各団体のHPに紹介されていない時期の受賞作品の情報等）の提供を受け、紹介していく。
- ・ 4 社においては、上記を前提に、①非公開を前提にアーカイブする資料、②ウェブでの公開を前提とする資料、それぞれについて、各受賞作品についてどのようなものが可能かを、1 月中をめどに検討していただき、最終的には 3 月上旬までに、可能な範囲で、提供いただくことをお願いしたい。
- ・ D A A S としては、それをサンプルとして、4 月以降、他の受賞作品の設計者にアプローチすることを予定。

(具体的な4社から提供を受ける資料のイメージ)

1. 作品データシート

受賞建築作品の属性データを示すシート。作品ごとに1シート作成。所在地、用途、規模、設計者、施工者、受賞歴などを記入。

2. 関連資料データシート

受賞作品に関連する資料の属性データを示すシート。資料1点ごとに1シート作成。資料の種類(図面、スケッチ、説明資料、写真等)、資料の著作権者、公開の可否などを記入。

3. 2の資料の実物

(参考) 今年度の補助事業の成果物

1. 表彰事業の受賞作品等の一覧作成 (200万円)

- (1) 学会、J I A、士会、日事連、B C Sの各賞
- (2) 文化財、住宅、まちづくり系の各賞

2. 4社の受賞作品の収蔵データの作成 (200万円)

3. 受賞作品の収蔵データのウェブ公開システムの作成 (500万円)

池田 武邦 様

建築・空間デジタルアーカイブス（DAAS）では、1960年代以降の近代建築を撮影した建築写真をデジタル化し、その保全とWeb上での公開を行い、各地の建築アーカイブスとの連携を目指しています。さらに建築家の皆様にインタビューをさせて頂き、その際の映像もWeb上でご覧頂けるようになっていきます。DAASは、活動を始めて2年半ですが、現在ではアクセス数も、140万回／年となりました。

DAASビデオは、今までDAASの理事の方々にお願いをして参りましたが、6人目で初めて理事以外の方に広げてお願いをさせて頂くことと致しました。是非、ご出演をお願い申し上げます。

DAASビデオ 池田武邦様の企画案

出演者略歴： 1924年生まれ、1949年東京大学卒業、現在、株式会社日本設計名誉会長、日本建築家協会名誉会員、日本建築学会名誉会員、長崎総合科学大学名誉教授。

主な受賞： 日本建築学会業績賞（1968年、1980年）、日本建築学会作品賞（1974年）、日本建築学会霞が関ビル記念賞（1987年）、日本造園学会賞（1992年）

タイトル（案）： 「環境」で「設計組織」を率いる／「環境理念」と「建築経済」の関係

【キーワード】 超高層建築（霞が関ビルから新宿三井ビルへ）、
東京都庁のコンペ（1988年）、滋賀県のコンペ（琵琶湖を守れ）
ハウステンボスの計画（長崎における20年）、
大村湾との出会い、海軍時代、すまい（渋谷から長崎へ）
近代建築、合理主義、高度経済成長、設計組織、
（建築を志す者に対して）自然はどう捉えるべきか、人間と自然の関係とは、
最近の地球環境議論について感じておられること。

【編集と公開】

Web上での公開は、20分から30分ぐらいに編集させていただきます。

＊） 出演者には、編集後のDVDをパッケージに入れて差し上げています。

【撮影のイメージ】

撮影場所は、長崎のご自宅でいかがでしょうか。

質問者は、映像には写りませんが、三塩 DAAS 委員長が担当するのが原案です。

その他の候補者としては、橋本さん：新建築、中田さん：宮城大学など

段取りとしては、質問させて頂く内容やお話頂く内容を、事前に打診致します。

【スケジュール案】

撮影は、7月下旬から8月上旬にかけて予定したいのですが如何でしょうか。

編集後、9月末にはWeb上で公開（予定）となります。

以 上

2009.06.12

DAAS ビデオ企画案

対象者：内田祥哉（うちだ よしちか）氏

現住所：東京都

略 歴：1925 年生まれ、1947 年東京大学卒業、現在、東京大学名誉教授、内田祥哉建築研究所所長

主な受賞：日本建築学会賞・作品（1970 年、1982 年）、日本建築学会賞・論文（1977 年）
日本建築学会大賞（1996 年）

テーマ：（案）超高層建築からプレファブ住宅まで、（案）環境問題と住宅の発展

【キーワード】 木造から鉄筋コンクリート造へ（お勧めの構造は？）
論文「建築生産のオープンシステム」とその後
工業化住宅と構法（プレカットはプレファブか？）
建築物と環境問題
住宅の寿命と耐久性
住宅生産とは（住宅の向かうべき姿）

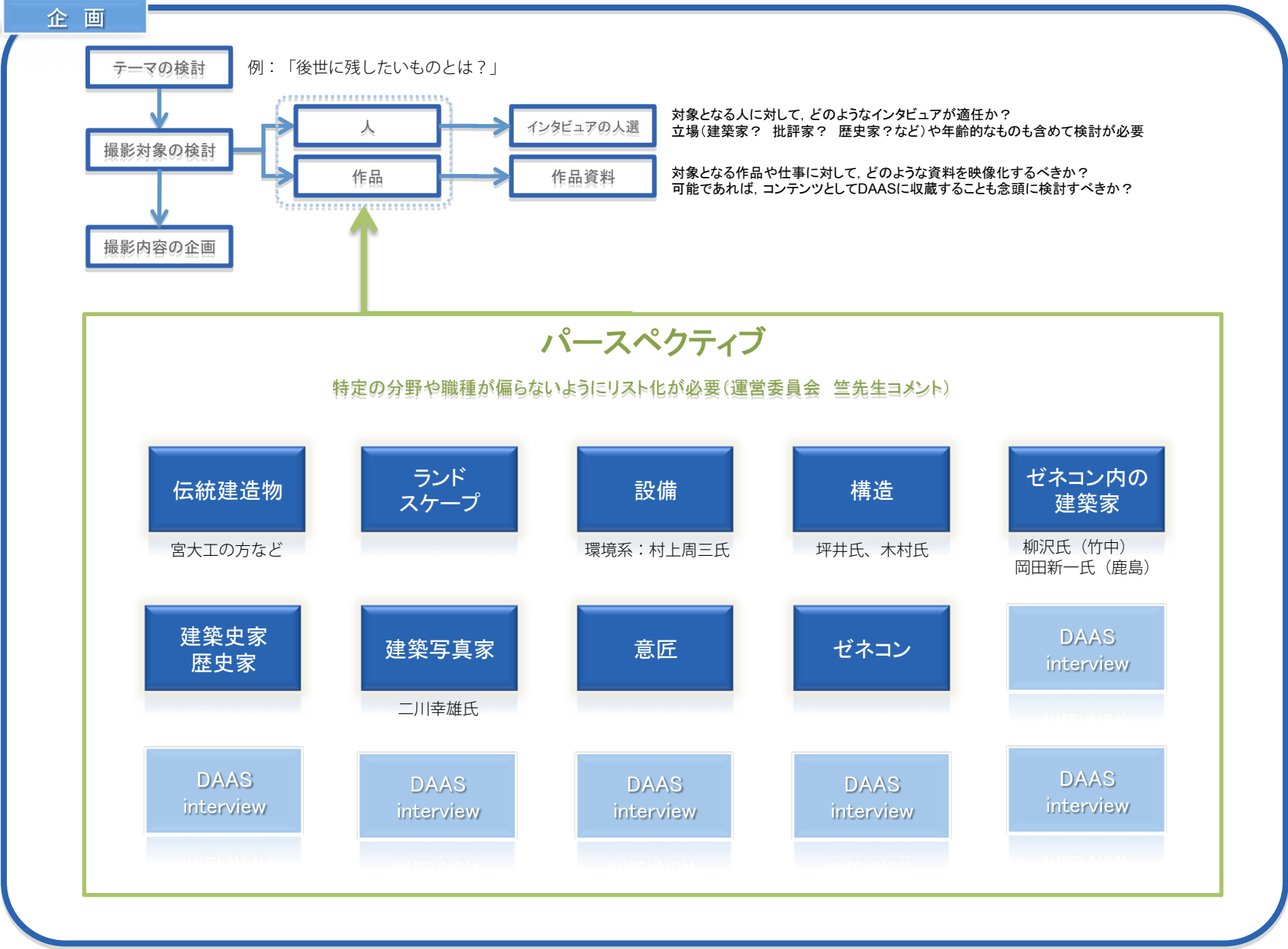
【映像の背景】 （案）東京都自邸事務所、武蔵学園キャンパス

撮影の段取り：

撮影場所	東京都内
質問者は	井出氏
手 筈	DAAS 担当者から正式に打診、質問及びお話頂く内容の打診

時期スケジュール DAAS の都合では、7 月下旬から末にかけて希望。
編集後、9 月には Web 上で公開予定。

以 上



DAAS INTERVIEW

vol. 001

池原義郎

Yoshiro Ikehara

2008

1928年 東京生まれ
 1951年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 1953年 早稲田大学大学院工学研究科
 建設工学専攻建築計画専修了
 1953年 山下寿郎設計事務所勤務
 1971年 早稲田大学理工学部教授
 1988年 株式会社池原義郎・建築設計事務所設立
 1989年 日本芸術学院会員
 1995年 早稲田大学名誉教授

写真提供：株式会社 新建築社

協力：池原義郎・建築設計事務所

制作協力：東京サウンドプロダクション

制作著作：建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム

DAAS



Yoshiro Ikehara

池原義郎

2008

DAAS INTERVIEW
vol. 001

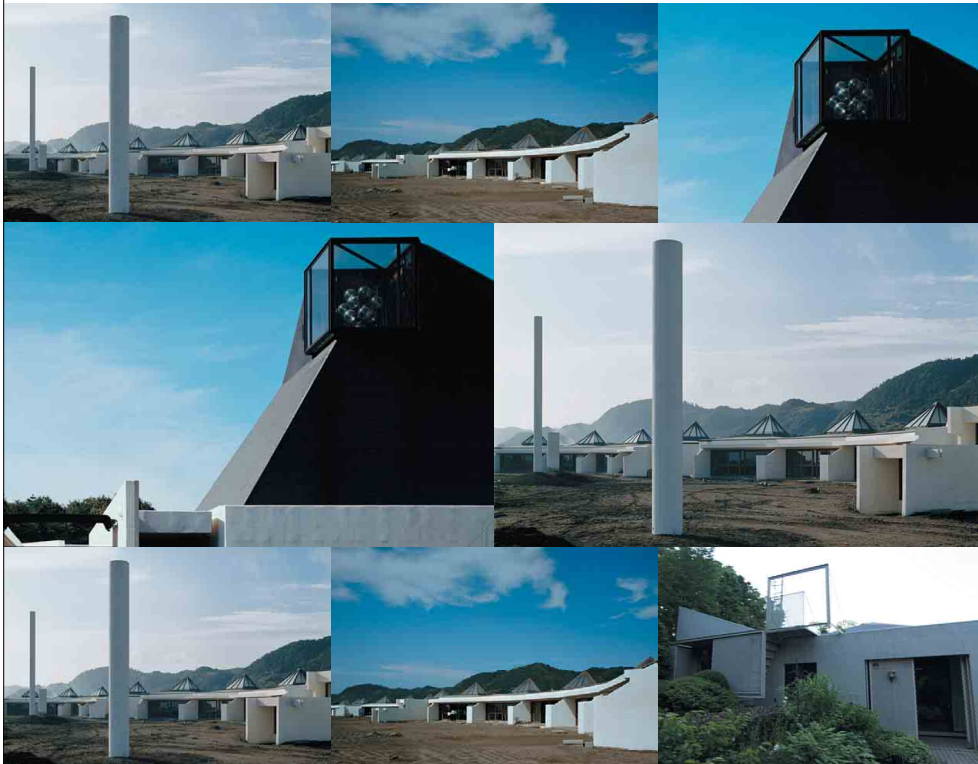
DAAS INTERVIEW

vol. 001

池原義郎

Yoshiro Ikehara

2008



DAAS INTERVIEW

vol. **002**

池原義郎

Yoshiro Ikehara

2008

- 1928年 東京生まれ
1951年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1953年 早稲田大学大学院工学研究科
建設工学専攻建築計画専修了
1953年 山下寿郎設計事務所勤務
1971年 早稲田大学理工学部教授
1988年 株式会社池原義郎・建築設計事務所設立
1989年 日本芸術学院会員
1995年 早稲田大学名誉教授

写真提供：株式会社 新建築社

協力：池原義郎・建築設計事務所

制作協力：東京サウンドプロダクション

制作著作：建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム

DAAS

撮影：2008年5月27日



Yoshiro Ikehara

池原義郎

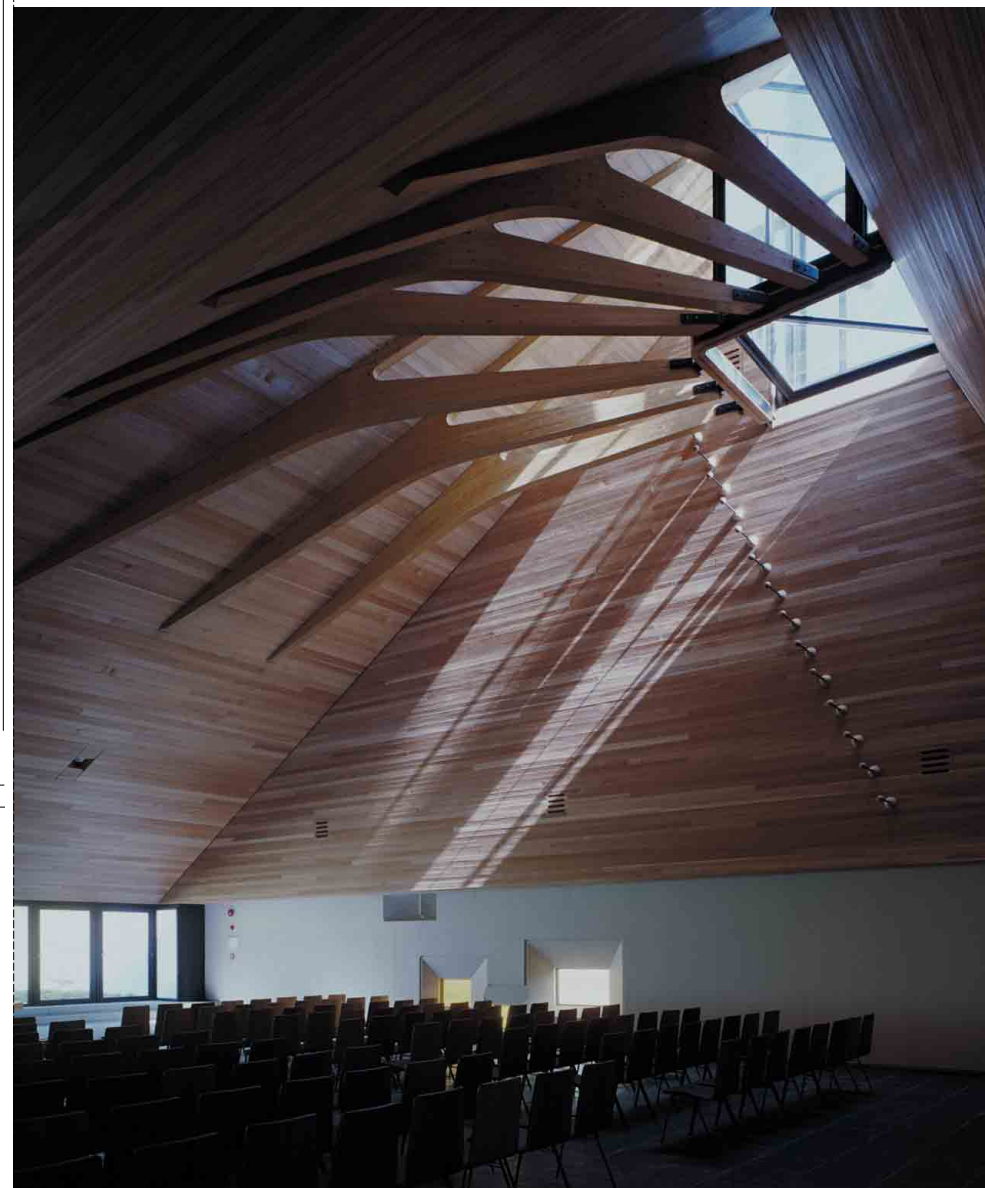
DAAS INTERVIEW

vol. **002**

池原義郎

Yoshiro Ikehara

2008



2008

DAAS INTERVIEW
vol. **002**

DAAS の活動4つの骨子 (エスエス写真様との共同作業をめざして)

2009 年 5 月 21 日

DAAS 運営委員会 事務局

■ 長期計画・活動目標を 明らかにする

DAAS の活動開始(2007 年 3 月の第 1 回運営委員会)からの 5 期(4 年 7 ヶ月間)を「創立期」と位置づけ、残る 2 期の活動目標を明確にして着実に運営を進める。

具体的な目標として、2 年後の 2011 年 9 月末に開催される UIA2011 Tokyo を定め、現在の倍の規模となる「約 3000 件の建築作品に対して 12000 点の関連資料を収蔵するデジタルアーカイブ」となることを目指したい。そして、同大会を通じて、我が国の建築文化を蓄積・発信する活動として世界に示したい。

その成果に対する指標とは、資料の保全・収蔵活動の拡大、資料収蔵基準の明確化、バランスを考慮した収蔵戦略(年代的、地域的、用途的な)、著作権処理(DAAS スタイルの確立)、DAAS コンソーシアムの法人化(当面は一般社団法人で最終的には公益法人を目指す)、グローバル化(英語による情報発信)、国内外の建築アーカイブスとの連携、などである。その結果、DAAS へ建築写真を収蔵する道筋が整うことになる考える。

その1: 時間軸の考え方(いつまでに何を)

DAAS が現在収蔵している約 1200 件の建築作品と約 6000 点の写真資料に対して、主要団体の顕彰作品約 1700 件と関連する写真・図面などの資料の追加をめざしている。

顕彰作品のリスト化は既に終わり、昨年末から今年 3 月までの約半年間、コンソーシアム会員の設計事務所を中心に、提供可能な写真や図面などの関連資料のリストアップと著作権者等ステークホルダーに対する権利調整を実施した上で補正とデジタル化を行うトライアルを実施した。このトライアルでは、各事務所に該当した顕彰作品からそれぞれ 5 作品を選択し、1 作品あたり 10 点程度を目安として資料提供の可能性を模索した。その結果、収蔵は可能だが公開は不可というケースを含めると、概ね目標を達成できることが分かった。多数の顕彰作品を持つ設計事務所を対象としたケースではあるが、一組織あたり半年間で約 50 点の関連資料を収集する可能性を示唆できた。この数は、権利調整作業が一つのキーであったことから、資料の著作権者と包括的ないしはスムーズに調整できれば、さらに増やせると期待できる。また、可能であれば、その他のテーマを広げることで、供出の対象となる写真や図面などの関連資料の点数を拡大することもある(例: DOCOMOMO100 選、写真家のこだわりの作品…)

これらを踏まえ、2010 年 9 月末までに顕彰作品の半数を目標に関連資料の収蔵を実施し、2011 年 9 月末までには残りの関連資料の収蔵をめざす。その結果、UIA の際には、10,000 点を越える写真・図面資料を収蔵する建築アーカイブに成長する。

その2: 関係者(事業者)の相関(だれが何を)

今回の関係者(事業者)は、SS【本体】、SS【ラボ】、DNP、DAAS の4者となる。
SS【本体】から、まとまった写真データ(もしくはプリント)の提供を受けるのを前提とし、プリントの場合は、DAAS がデータ化の費用を負担する。(2009 年度補助金から拠出) 保全や収蔵に掛かる費用は、必要に応じて DAAS が負担する。
データ化の実作業は、SS【ラボ】と DNP の2社に依頼するが、以上の作業フローを、エスエス社と共同で作成するなど協力を仰ぐ。
作業フロー例「写真選定→デジタル化→退色補正→メタデータとの整合→収蔵(公開)」

その3: 収蔵すべきターゲットとなる顕彰作品(いくらで何を)

顕彰リスト(1700 作品)の整理(メタデータの揺らぎ解消)はほぼ済んでいる。その中から、エスエス社から提供が得られる写真点数を確認する。さらに、エスエス社でデータ化が済んでいるもので、データ化や退色補正が不要なものの数を確認する。
その際、BCS 加盟の GC が関係している点数は何点か、LF が関係している点数は何点か、なども確認する。1700 作品のうち、関連団体が保有し整備している約 700 件を除く 1000 件の作品について関連資料をあつめることをベースとし、単価を定めて予算との整合を諮り、年度単位の収蔵数を予測する。

第3期、第4期を併せて、顕彰作品 1000 点に対し、各資料 5 点、合計 5000 点を収蔵目標数と設定する。それにより UIA Tokyo の開催までに、合計収蔵数 10,000 点を超える見込みである。現段階では、デジタル化費用単価 1 点 5,000 円として、2,500 点(500 作品×5 点)を第3期目標と定める。

さらに、エスエス社提供分の中で、データ化が済んでいて補正費用などが不要な場合は、予算上は助かるが、エスエス社から提供を受ける際に、データ化費用の一部を DAAS が負担することを求められることも考慮に入れておく必要がある。

さらに、建築写真には、竣工写真としてのオーダーに基づくものとは別に、写真家の作品としての写真、人が居たり使われてからの情景写真、ディテールにこだわった部分写真など、様々なテイストの写真が存在しているので、それらを積極的に取り扱うことで、写真家の活動を支援し、写真家の理解や協力が得られ、コンテンツ中身の充実した建築写真アーカイブスとしての特徴付けができるのではないか、というエスエス社からの提案が寄せられている。十分に検討に値するので、収蔵写真のテーマ拡大という部分で提案したい。

その 4: 手続き(契約フォーマット)の整備

ステークホルダーの十分な理解を得るために、覚え書や契約書など、DAAS があくまでステークホルダーの意思を尊重し、その合意がなければ一切の資料公開も行わない(あるいは、デジタルデータとして存在しないケースも想定すべき)ことを明確かつ一般的に示すことができる手続きを、法令等に準じて定式化する。

また、収蔵時に必要となるメタデータの項目とそこに書かれるべき文字などのフォーマットと共に、ステークホルダーの意図する「保全・収蔵に対する許可や条件」「公開に対する許可や条件」「外部向けデータ提供(写真販売等)の許可や条件」など、許諾に関する一連のフォーマットも定式化し、明確かつ一般的に示すことができるようにする。当然ながら、そのフォーマットの中には、施主の了解、設計者の了解、施工者の了解の有無を記載し、さらに、写真の依頼主(ゼネコンか、施主か)、写真家名の記載(公開の良否を含めて)、などを明確にする必要がある。

これらの結果、収蔵作業の道筋が整えば、顕彰作品の自動的な収蔵や、収蔵テーマの展開に沿った収蔵点数の拡大が見込め、建築写真アーカイブスとして成長していくと考えられる。

以 上

- 著作権(複製, 上演・演奏, 上映, 公衆送信, 口述, 展示, 頒布, 譲渡, 貸与, 翻訳・翻案, 二次的著作物利用, 出版)は創作当初は著作者が保持するが, **譲渡が可能**
- 著作者人格権(公表, 同一性保持, 氏名公表)は著作者が保持し, **譲渡・相続は不可能**

DAASのスタンス

- 著作権の譲渡の有無に関わらず, 著作者および著作権者の意図を**尊重**
- 著作物と紐づけて著作者(職務著作を含む)に関する情報を保持
- 許諾に基づいた褪色補正などによって得られた著作物は**DAASが二次著作物として保持**する
- 著作権を譲渡せず著作権者の複製・翻案・公衆送信の許諾によって「保存」「修復」「公開」を実施
(Photo by 著作者, Copyright © 著作権者, All rights reserved. Preserved and Digitalized by DAAS.)
- 著作権の一部譲渡に応じ「保存」「修復」「公開」「展示」を実施(複製, 公衆送信, 展示, 翻訳・翻案)
(Photo by 著作者, Copyright © DAAS, 著作権者, All rights reserved.)
- 著作権の全部譲渡に応じ「保存」「修復」「公開」「展示」などを実施
(Photo by 著作者, Copyright © DAAS, All rights reserved.)

パターンA: 著作権者の許諾に基づき修復・収蔵を実施する場合(最も現実的 cf. 新建築社)

- 著作権者とDAASは著作物利用に関する契約を締結
- 著作権者は複製権・翻案権に基づき, DAASに褪色補正を行った二次著作物の生成を許諾
- 二次著作物の公衆送信(公開・非公開)は著作権者が決定
- 著作権者は二次的著作物利用権による生成した二次著作物についてDAASと同等の権利を有する

パターンB: 著作権の一部を譲渡する場合(あまり現実的ではない)

- 著作権者とDAASは著作権の一部譲渡に関する契約を締結
- 譲渡対象の著作権をDAASが所有(譲渡される権利によって契約内容が変化)
- 譲渡された権利に関するマネジメントはDAASが実施, それ以外については別途取り決め

パターンC: DAASに著作権を全て譲渡する場合(数件の問い合わせあり cf. 個人写真家)

- 全ての著作権はDAASが所有
- 著作物(写真等)と二次著作物(補正後)の全てをDAASが管理

DAAS デジタル卒業設計大賞2009

募集要項

2009 年 7 月 1 日

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)
デジタル卒業設計大賞 2009 実行委員会

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)¹は、これからの建築界で活躍が期待される若い学生・建築家・デザイナーの卒業制作作品を対象とした「デジタル卒業設計大賞2009」を開催いたします。

本大賞は、デジタル化した建築資料の積極的な公開と活用によって建築文化の浸透と発展を目指すDAASの活動の一環として開催されます。「自由な発想とデジタル技術を駆使して、自身の卒業設計を表現すること」を目的とし、建築作品としてだけではなくインターネットを通じた表現として合わせて評価を行う特徴ある表彰イベントです。

第3回目となる「デジタル卒業設計大賞2009」は、選考委員としてDAAS 理事であり建築家の難波和彦先生をお招きしています。

デジタル表現の特性を生かした、意欲と創造性にあふれる魅力的な作品をお待ちしています。奮ってご応募ください。

募集作品

作品は以下の要件を満たしているものを対象とします

- 2009 年 3 月末までに大学・大学院・建築系教育機関を卒業、あるいは修了する際に制作された卒業・修了制作作品であること
- インターネット上に公開され Web ブラウザで閲覧可能な Web サイトであること
- 1 人または 1 グループ 1 点とする（グループの場合、メンバーもしくは代表者が同じであれば 1 点のみとし、応募後の名前の変更は認められない）

¹ 我が国の優れた建築物に関する図面や写真などの資料や建築家自身による解説などをデジタル化して収蔵し、インターネットを通じて積極的に公開することで、未来へ継承することを目的として設立されたコンソーシアム。

参加資格

参加者は以下の要件を満たしていることとします

- 2009年3月末までに大学・大学院・建築系教育機関を卒業、あるいは修了していること（応募時点での学生、一般の別は問わない）
- 個人・グループの別は問わないが（グループの場合は代表者を明記すること）応募者（グループの場合は代表者）はDAASメンバーであること（DAASメンバーへの登録（無料）は随時可能）

応募方法

本大賞に関わる応募・審査・通知は全てWWW (World Wide Web)上で行います。応募はDAAS Web サイト(<https://www.daas.jp/>)のトップページに掲載される「DAASデジタル卒業設計大賞 応募フォーム」より必要事項を登録します。応募受付期間は、**2009年7月1日(水)**から**2008年10月31日(土)**までとします。

応募者は作品をインターネット上で閲覧可能にし、作品のタイトルなどの情報と共にそのURL（アドレス）を応募フォームにご記入下さい。なお、登録後、全ての作品は DAAS Web サイト上に制作者名・作品名・トップページのサムネイル画像などから登録したURL へのリンクを行い一覧・公開されます。審査は一般的なWeb ブラウザを用いて一律に行われます（Microsoft 社 Internet Explorer およびMozilla プロジェクト Firefox など）ので、別途プラグインなどが必要な場合は、閲覧時にダウンロードを促す記述等、必要な対策を講じてください。なお、表示するパソコン画面の解像度はXGA(1024x768)以上を前提としてください。

Webサイトとして公開可能なスペースをご自身で準備できない場合は、DAAS事務局にご相談ください。

審査方法および結果通知

審査は二段階に分けて行われます。応募者作品の中から数点を入選作品として選抜し、結果を応募者に電子メールにて告知すると共にDAAS Web サイト上で公開します。その後、選考委員を交えた入選者の懇親会²を開催し、その場で講表と表彰が行われます。

²入選者には懇親会参加費用として日本国内の往復交通費（実費）が支給されます

表彰は、本大賞の趣旨に従い「卒業設計で制作した建築に関する評価」「Web サイト上で利用可能なデジタル化による様々な表現手法に関する評価」の二つの観点より美術的表現力、創造力を審査して行われます。建築物として優れた作品には「優秀建築作品賞」を、Web サイト上の表現に優れた作品には「優秀Web 表現賞」を、総合的に最も優れた作品には選考委員より「デジタル卒業設計大賞 難波賞」が授与されます。

入選した作品はDAAS Web サイトへ収蔵され公開されます。また、懇親会の模様はビデオ映像として公開する予定です。

なお、2007・2008年度の受賞作品と講評コメントについては、DAAS Web サイトにて公開しています。ぜひ参考にして下さい。

DAAS: イベント報告 デジタル卒業設計大賞2007

受賞作品一覧

<https://www.daas.jp/prize/result2007.php>

懇親会の様子

<https://www.daas.jp/prize/2007/party2007.php>

DAAS: イベント報告 デジタル卒業設計大賞2008

受賞作品一覧

<https://www.daas.jp/prize/result2008.php>

懇親会の様子

<https://www.daas.jp/prize/2008/party2008.php> (2009年7月公開)

選考委員

難波和彦（建築家・東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 教授・DAAS 理事）

DAAS 運営委員

アドバイザー

楨 文彦（建築家・DAAS 理事長）

応募作品の発表と著作権について

審査および審査結果の発表などのために、応募作品をDAAS Web サイトに掲載、公開する権利、あるいは複製、印刷、展示、出版する権利についてはDAAS

コンソーシアムが保有し、応募者は無償でこれを承諾するものとします。作品の著作権は応募者に帰属します。結果発表後、DAAS Web サイトにて応募作品（一部あるいは全部）をアーカイブとして収蔵・保管し、公開することも予定しています。この際、応募者の氏名・所属を公開させていただきます。

注意事項

1. 応募作品に収録されているいかなる内容も、他人の権利を侵害するようなものであってはいけません（著作権、商標権、肖像権などの諸権利等）。審査発表後にこれらの侵害やその疑義が発覚した場合の全責任は、応募者が負うこととします。これらの侵害の恐れがある場合は、主催者の判断によって応募を拒否したり入選を取り消したりする場合があります。
2. 応募作品はインターネット上で公開されますのでご留意の上ご応募ください。また DAAS Web サイトへ収録する際に変更をお願いする場合があります。
3. 応募に関する質問は DAAS 事務局までお問い合わせ下さい。お問い合わせのあった内容につきましては DAAS Web サイトで回答も併せて掲示する場合があります。
4. ご自身の Web サイトへのアップロード方法などについて事務局からご案内することはできません。
5. 記述が不十分などの理由により、応募者の意図したとおりに表現できない場合は審査時に減点の対象、または審査対象外となるおそれがあります。
6. 自分の意図したように作品が閲覧できるかどうか、様々な環境で確認して作品を構築することを、強く推奨します。なお事務局でどのように閲覧できているかのお問い合わせには一切お答えできません。
7. DAAS Web サイトで公開された作品の内容、作品に起因するトラブル等に関しまして、DAAS および事務局は一切責任を負いません。

個人情報の取り扱いについて

応募者からメンバー登録以外に取得した個人情報については、DAAS 事務局からの事務連絡に使わせていただきます。また、本大賞の審査から結果発表の過程で、ご登録いただいた氏名・所属先や年齢などを選考委員に開示させていただきます場合があります。あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム 事務局

住所：〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-14-36 FUJIMI WEST 3 階

電話：03-5211-0568 / ファックス：03-5211-3169

電子メール：award2009 <at> daas.jp

(アドレス内の<at>を半角アットマークに置き換えて下さい)

※本事業に関する質問・お問い合わせは電子メールにてお寄せください。

